

タイ北部のソンクラーンを彩る切り紙細工

『トウンサイムー』を作ろう



トウンサイムー ตุงไส้หมู

トウンサイムーは、タイ北部の伝統的な紙工芸です。カラフルな紙を重ねて切り込みを入れ、広げることで作られる旗（トウン）を砂の仏塔に飾ります。これには、人々の願いや祈りが込められており、タイ北部の文化や伝統を象徴する存在となっています。特にタイのお正月である4月のソンクラーンの時期には、タイ北部の寺院や家庭など、いたるところに装飾されたトウンサイムーが華やかな雰囲気醸し出します。トウンサイムーと共に、タイの十二支が描かれた旗も一緒に飾られます。

ソンクラーン สงกรานต์

太陽の軌道が12ヶ月の周期を終え、新たに白羊宮（おひつじ座）に入る時期を祝う伝統行事です。もともとは、仏像や仏塔、さらに年長者などの手に水を掛けてお清めをするという伝統的な風習が受け継がれてきました。一年で最も気温の上がる季節のため、街で通行人同士が水をかけあって楽しむ「水かけ祭り」として知られるようになり、バンコクはもちろん、各地で独自のイベントが開催されています。ユネスコ無形文化遺産にも登録されているソンクラーンは、毎年4月13日～15日に行われ、国民の休日にもなっています。



ウェブサイト



SNS